

割り箸の消費と日本



発表者

岩室、亀井、白石、中澤、松本

記事の要約



日本国内で年間250億膳使われている割り箸の9割は中国産である。その中国が森林保護を理由に生産を制限し、将来は輸出禁止も視野に入れていると発表。民間の外食産業では独自の方法で対策をとり始めたが、割り箸は日本から消えてしまうのだろうか。



日本での割り箸使用の現状

一年間で一人当たり平均200膳の割り箸を使用

一膳あたりの割り箸は、国内産2円～20円

中国産1円～2円



用途別消費割合は15%が弁当用、20%が家庭用、65%が飲食店であるとされている。



割り箸の社会的メリットとデメリット

- 使い捨てなので、衛生的
- 手軽に使える
- 握んだ物が滑りにくく、持ちやすい
- 費用が安い
- 水質汚染低減
- 割るという行為による儀式的な文化の尊重
- 使いまわすことができない
- 廃材とはいえ、捨てる量が多過ぎる
- 無尽蔵にあるという偏見
- 中国における森林破壊
- 防カビ剤など、用いる化学物質による影響の懸念

私達が賛同した考え

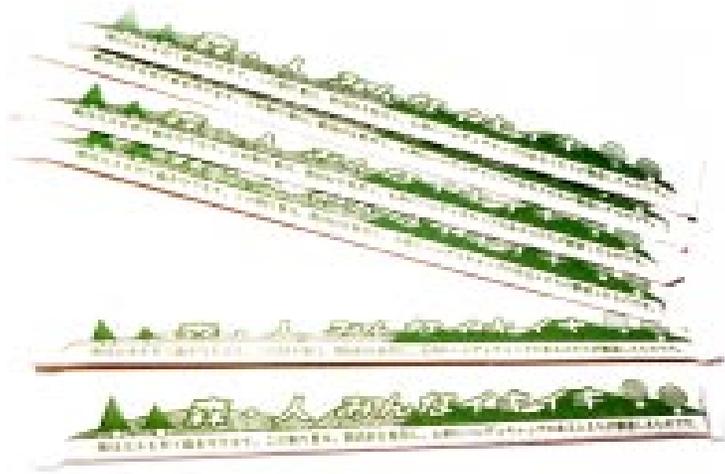
林業衰退で使われずにいる状態の多い間伐材を使用して割り箸を作り上げる。

加えて私達は...

国内林業の活性化、さらに将来的割り箸輸入廃止を考慮し、すべて国内でまかなう為の、「全割り箸間伐材使用」を進行させていくべきだと考える。



間伐材利用の可能性



- 現在日本には約400万haの間伐必要森林が存在している。その全てを割り箸生産に充てられるとするならば、約3兆膳が作れると算出された。その中で、現在の250億膳で割ると、約0.83%の森林の間伐材を割り箸に当てるだけで間伐材割り箸の供給がまかなえる。
- * 処分費、枝条処理4千5百円、根処理6千円(各1m³あたり)がかかる

間伐材利用のメリット



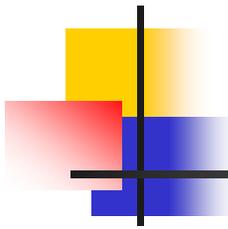
間伐を行うことによって、木々の成長を助け、乱立している木々の統制が取れる。つまり、立木密度を調整し、健全な生態系を保つことが出来る。

さらに、間伐によってより高品質の木材を供給可能にし、森林育成を助ける。

間伐材マーク



拡大図



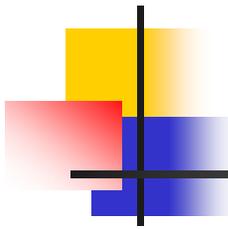
間伐材利用のデメリット

間伐を行うに際しての person 費、工事費の負担が所有者及び業者に強られる。

間伐材を箸にするためのインフラ、ないし土台が整っていないので、受け皿が少なく現段階では間伐材利用の需要が見込めない。

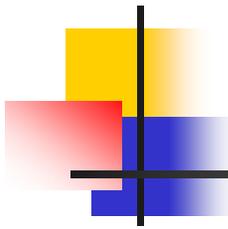
実在する国内産間伐材を使った箸は一膳約5円～10円。

さらに、現状の林業では、価格の安い中国産におされてしまっているので、全ての土地に対して間伐が行き届くための財源がない。



割り箸を加工する費用を考えた際の利益

割り箸一膳に対する生産コストは、国内産で3円であり、これを今ある最低価格の5円で販売すると、全体で500億円の収入を得ていることになる。そして、間伐費、搬入費、販売経費等が1ha当たり30万円であるので、250億膳分の間伐必要林3万3千haで計算すると、99億6千万円の費用がかかり、500億から引いて400億4千万円の利益が日本全体で生じる。



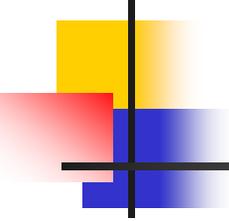
現状の対策

<割り箸>

- 中国との関係強化
- MYはし
- アド割り箸
- 竹箸への切り替え
- 箸に付加価値を持たせる(高級箸)

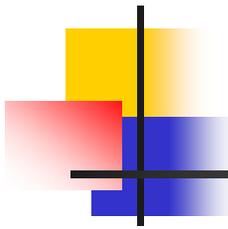
<間伐材利用>

- ボランティアなどによる間伐作業
- 間伐を行う際に補助金が支給されている



具体的な政府の対策

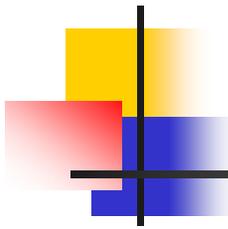
- **環境省**：廃棄物処理法第5条の8に規定される廃棄物減量等推進員は、一般廃棄物の減量の為に排出抑制の推進の項において紙コップや割り箸などの使い捨ての物の使用を控えると定めている。
- **林野庁**：間伐等推進三カ年対策、団地的な取組の強化及び間伐の強さ(本数間伐率)の確保による効率的な間伐の実施、要整備森林の属地的な間伐遅れの解消、長伐期施業への誘導等を推進。併せて、国有林野においても間伐対策を重点的に実施。



まとめ

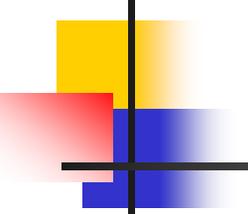
中国、「森林保護」を理由にした割り箸輸出の禁止へ

- ・日本から割り箸は消えるのか？
- 国内の間伐材利用割り箸生産で利益が得られるようになる
- 全割り箸間伐材利用による国内の間伐材の利用拡大
- 割り箸消失の回避 & 国内森林環境の保護



余談として...

- 我が大学の割り箸使用現状と対策
 - 生協食堂：割り箸使用量は約三束/日。この場合の一束は200本程度だそうです。基本的に割り箸はリサイクルを行っている（主に紙などの再生紙）これ以外にも並行してカーボン箸を使用中。
 - 山食：割り箸のみ使用。具体的な数量は教えてもらえなかったが、可燃ごみなどと一緒に廃棄。リサイクルなどの対策はなされていないよう。



参考文献及び参考資料

下川製箸株式会社 実際の間伐割り箸を販売している

<http://www.northmall.jp/waribashi/>

農林水産省 林野庁 間伐等推進総合対策の推進

<http://www.rinya.maff.go.jp/index.html>

環境省 廃棄物処理法を参照

<http://www.env.go.jp/>

国土緑化推進機構 森林ボランティアなどの活動

<http://www.green.or.jp/>

環境白書 特に鳥取県における割り箸の再利用活動

<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/hakusyo.php3?kid=208&serial=10020&kensaku=1&word=%8A%84%82%E8%94%A2>

JATAN(熱帯林行動ネットワーク) 実際に日本の消費する木材の量などを参照

<http://www.jca.apc.org/jatan/>

環境情報プラザ 現存する人工林と生産する割り箸の量を計算するのに数値を参照

http://kankyo.kkc.or.jp/key/kkeyk_0406.html

環境三四郎 日本での現状と数値を比較するのに参照

http://www.sanshiro.ne.jp/activity/99/k01/6_18prs1.htm